

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



特別アピール
クリスマス・お正月
に愛の贈り物を
(3頁をご覧下さい)

教室建設のために訪れたワークキャンプメンバーに自分の名前を書いてもらって大喜びのウガンダ・カサレー小学校の子どもたち

受ける幸だけでなく与える幸いも

日本国際飢餓対策機構 啓発総主事 田村治郎

光輝くイルミネーションが点灯され、街ではクリスマスソングが聞こえる季節を迎えました。プレゼントやパーティーなど、多くの人がクリスマスを待ち遠しく感じているのではないのでしょうか。

今年は自分の楽しみだけではなく、他の人の幸せを考えるクリスマスにしてみませんか？ 今私たちの世界には、人が生きるために最低限必要である食を得ることができず、4秒に1人、1分間に17人もの人々が命を落としています。その内の12人がまだ5才にも満たない小さな子どもたちです。この世に命を受けて誕生しても、その命の尊さや存在の意義深さを知ることもなく、まるで生きることが許されないかのようにその存在を否定されている多くの人々がいます。

2014年9月16日、国連は世界の飢餓人口は8億500万人に減少していると発表しました。これは過去10年間で1億人の減少です。しかし、サハラ以南のアフリカでは、いまだに4人に1人以上が慢性的な栄養不足状態の中にあり、衛生や教育、女性の地位などの分野でも改善が進まず、飢餓の克服を遅らせています。日本人の約7倍の人々がこのクリスマスの時も空腹のまま床につか

なければならぬのです。工業先進国の飽食と比べてあまりにも厳しい状況です。

その工業先進国の一つ、日本では年間に廃棄される食糧の多さに驚かされます。年間食糧廃棄量1,900～2,700万トンの内、小売店の売れ残りや期限切れ、また製造過程で出る規格外品、飲食店や一般家庭で出る食べ残しや食材の余りを指す食品ロスの量は年間500～900万トンと言われ、これは途上国の人々5,000万人分の食糧でもあります。この内の約半分が一般家庭で廃棄されています。調理段階で食べられる部分を捨てたり、食べ残しや冷蔵庫の中で期限が切れてしまった物などです。食材を買いすぎない、使い切る、食べきるなどのほんの少しの工夫で大きく改善される事柄です。

豪華な食事をいただく回数も増えるクリスマスや年末年始、そこでのひと工夫が他者の幸福を実現していく一歩となるはず。

誰もが食べられる世界、誰もが生きられる世界を目指して「私から始める、世界が変わる」、1年の締めくくりもこの実践でありたいと願います。

「受けるよりも、与える方が幸いである。」使徒20:35

2月7・8日にワンワールドフェスティバル (大阪) 「ハンガーゼロ・カフェ」を出展、ぜひお越し下さい

2015年2月7・8日は西日本最大の国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」が、関テレ扇町スクエア、北区民センター、扇町公園 (大阪市北区扇町) の3カ所で開催されます。(※今回から会場が変更になります) 世界で起こる様々な問題に取り組むNGO、NPO団体を始め、政府機関や教育機関も集まり、出会い、ふれあい、学び合いを合言葉に集結。当機構も民族料理コーナーで「ハンガーゼロ・カフェ」を出展します。また、フェアトレードの(株)キングダム・ビジネスも出展します。ぜひご来会ください。大会実行委員会でボランティアを募集中です。詳細はwebまで。
<http://www.interpeople.or.jp/owf/volunteer.html>



クリスマスギフトとしてどうぞ 「今年もいろいろありがとう」セット

【セット内容】
★コーヒー モカ・ブレンド ¥870 (200g)
～ケニアのシーブケア学校給食を支援～
★フェアトレード ココア ¥650 (200g)
★ノクシカタポーチ
フェアトレード バングラデシュ¥2,000
以上を送料無料で、税込、合計3,500円です！
ポーチは色が指定できます。(えんじ、黒、白)
プレゼントにはラッピングバッグに入れてお届けいたします。



《ノクシカタポーチ》
ベンガル語で、「ノクシ」はデザイン、「カタ」は布の意味。もともとは使い古した衣装を寝具のカバーなどに再利用するための技術です。刺繍に様々なデザインが施され販売されるようになりました。
サイズ 巾145mm・高さ100mm・マチ65mm
【お申し込み】 株式会社キングダムビジネス
TEL: 06-6755-4877 FAX: 06-6755-4888
ウェブ: キングダムビジネスで検索
「今年もいろいろありがとうセット」から誠に恐れ入りますが、歳末につき、配達希望日時の指定はご遠慮ください。

年末年始にできる国際協力

- ★書き損じはがき (年賀状等)
- ★本deリンク
不要の書籍やCD、ゲームソフト
愛知事務所にお送りください。

ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!! 現在... 3/7/5/2/0

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- ハンガーゼロ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円1,000円)
- チャイルド・サポーター(世界里親会) になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフ・サポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。
毎月 () 円 (1円500円)
- ウガンダレンガ募金 () 円 (1個3,000円)
- 今回に限り () 円協力します。
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____ 住所: _____

(電話) _____

▼申込日: _____ 年 月 日 ▼ NL 293号

FAX・072-920-2155

大阪 〒581-0032 八尾市弓削町3-74-1
TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室
TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
東北 〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-13-6 エマオ2階E
TEL (022)217-4611 FAX (022)217-6651
愛知 〒466-0064 名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター2F
TEL (052)731-8111 FAX (052)731-8114
広島 〒730-0036 広島市中区袋町4-8 CLCボックス2F
TEL (082)546-9036 FAX (082)546-9037
沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするた
めに、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛
関西地区のボランティアの皆様が送付作業のこ
協力を下さっています。

■発行者 岩橋竜介

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構

Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>

■募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイトで

- 郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
- 他の金融機関からの自動振替 ●クレジットカード、デジタルコンビニ

今すぐ募金が出来ます!

JCBカードも使えるようになりました!

かざして募金

なぜ？ 飢餓になるの

シリーズ⑥
「食べ物を棄てる人」

これまで、世界の「飢え」はどのような要因で引き起こされるのかを国連世界食料計画（WFP）の発表をもとに考えてきました。「貧困の連鎖」「農業投資の少なさ」「気候と天候」「争い」を主な要因として取り上げました。これらの多くは重なり合って飢餓を引き起こしています。今回は「飢える人」がいる一方で「食べ物を棄てる人」もいることをご一緒に考えたいと思います。

最悪はアジアの日・中・韓

2013年9月に国連食料農業機関（FAO）は、世界で生産された食料の3分の1（13億トン）、金額にして約75兆円分が棄てられている



感謝して食事をいただく

と発表しました。最悪の廃棄地域は日本、中国、韓国を含む「産業化されたアジア」で、1人あたり年平均約80キロの穀類、100キロ以上の野菜を廃棄しているとのこと。また、北米・南米の食肉産業やアジア、ヨーロッパ、中南米の果物の廃棄問題も指摘されています。

世界の食料廃棄量の54%が、生産・収穫後の取り扱いや貯蔵の段階で起こり、残り46%はその後の加工の段階や流通、そして消費の段階で発生しているといわれています。

食べられるのに棄てる基準

開発途上国では生産・収穫後の取り扱い技術や適切な貯蔵設備がなく、また運搬手段の問題で消費者に届くまでに破損や腐敗が起るといふ、意図しない廃棄が発生します。一方、先進国では消費者が買いすぎて腐らせたり、賞味期限・消費期限を気にするあまり棄てたりしています。また小売の段階では、消費者が見た目の悪い物の購入を控えるために、食べられるけれど品質や美的基準に合わ

ないものを廃棄しています。このようにして裕福な社会で棄てられる食料は約2億2200万トン、これは飢餓に苦しむサハラ以南のアフリカの食料総生産量にほぼ匹敵する量です。

世界の9人に1人が飢えに苦しんでいる現在、すべての人が十分食べるだけの食べ物がありながら、その3分の1が棄てられているという事実を重く受け止める必要があります。これは世界の飢餓解消のために必要な食料の4倍に相当します。

国連の食料農業機関と環境計画（UNEP）は、“Think・Eat・Save. Reduce Your Foodprint”（考えて食べ、節約し、食料廃棄を減らそう）キャンペーンをスタートしました。

飢餓に苦しむ人々に愛の手を差し伸べる一方、私たち一人ひとりが自分の食生活を見直し、本当に必要なものを選択して食料の無駄を少しでもなくしたいものです。今すぐ始めましょう！

わたしから始める、世界が変わる

クリスマス・お正月に愛の贈り物を!!

年末年始にお孫さんやお子さん、ご家族や友人への贈り物を考えておられる皆様へ。今年はこの機会にクリスマスプレゼント、お年玉として、「ウガンダ・カサーレのレンガ募金」を贈りませんか？

レンガ募金でウガンダ・カサーレ小学校に教室を

募集期間：2014年12月1日～2015年1月末



飢餓対策ニュース2014年6月号で紹介したウガンダのカサーレ小学校では、1年生から7年生までの生徒508名に対して、教室が2つだけ。裸足を襲う砂ノミの不安の中、教室に入れず野外で勉強している子どもたち、雨が降ればそれも中止しなければなりません。そのためJIFHでは皆さんの温かいご協力のもと、教室建設の支援を進めています。今年の夏にはウガンダでワークキャンプを行い、参加者と村人が協力して教室の基礎部分を完成させました。これまで皆様のご協力感謝いたします。

村の人たちは、子どもたちのために日本人たちが心を寄せてくださっていることに励まされ、校舎に

教室の完成は来年の春頃を予定



使う日干しレンガを、貧しい生活の中でも一生懸命に用意しています。しかし、大勢の子どもたちが学ぶ校舎の建設にはそのレンガだけでは十分

ではなく、レンガに加えて建設費用が必要です。

そこで「ウガンダ・カサーレのレンガ」を大切な人にプレゼントとして、贈っていただくことで建設費用支援をお願いしたいのです。カサーレの子どもたちが、貧困の負の連鎖を断ち切ってコミュニティーの新たな未来を築いていくためには、しっかりと基礎学力を身に付けることが必要です。

今年は何か「もの」を贈る代わりに、カサーレの子どもたちの学び舎の完成を実現するための、**レンガ募金に協力することで、大切な人に「分かち合う心」を贈りませんか？**

「ウガンダ・カサーレのレンガ」というプレゼントを贈られたお孫さん、お子さん、友人には、カサーレ小学校から写真と共にお礼の手紙が届きます。そして、校舎が完成した折には、その報告が掲載された「飢餓対策ニュース」が届けられます。もちろんご自身が自分の名前で、また、教会や団体の名前でプレゼントすることもできます。

ぜひ下記によりご支援をお願いいたします。

----- 以下の申込書を切り取って必要事項にご記入し、郵送くださるかファクシミリ送信してください -----

「ウガンダ・カサーレ教室レンガ募金」として()個申し込みます。(1個：3,000円)

レンガ募金
お申込者様
お名前： _____ 電話 _____
ご住所：〒 _____

レンガ募金お礼の手紙と教室完成報告「飢餓対策ニュース」お届け先のご確認(□のどちらかに✓印を)
□レンガ募金者(ご本人)として受け取る ※こちらの場合は下記にお名前ローマ字表記のみお書き下さい。
□レンガ募金者ではなくプレゼントとして家族や友人などに送付する ※下記に全てお書き下さい。

手紙の
届け先
お名前： _____ ※ローマ字表記 [_____]
ご住所：〒 _____

※お届け先が複数の場合は、別紙にお申し込み者名とお届け先のお名前とご住所を記入して同送でFAX又はご郵送下さい。

▼FAX 072(920)2155 ■ウェブサイトからも申込みとクレジットカードがご利用できます
■お電話でも受付ます ☎072(920)2225大阪事務所まで

募金の際は、郵便振込00170-9-68590/日本国際飢餓対策機構 通信欄に必ず「レンガ募金」とご明記下さい

わたしから始める第一歩として「ハンガーゼロ・サポーター」となって応援をお願いします。裏面に申込み欄。

世界里親会ではカンボジアの新しい支援地スバイルー地区のチャイルドサポーターを募集中です。現在、200名の子どもたちが支援を待っています。

世界里親会カンボジア “希望のプロジェクト”

里子のカム・ティム君(9歳)と家族(スバイルー地区の村にて)



飢餓対策 NEWS 4

シェムリアップ州北部のスバイルー地区には有名なアンコールワット遺跡があり、観光客で賑わう影に極貧が隠されている地域です。またポルポト支配の影響が少なからず残っており、北部では地雷が埋まっている危険な場所もあります。

カンボジア政府によるとシェムリアップ州は、開発の度合いが

194の郡のうち184番目で、その中でもスバイルー地区は最も開発が遅れている地域です。このことから、FHカンボジアはこの地域での活動を決定しました。

FHカンボジアはこの地域での活動に4つの目標を設定しています。

①安定した収入の確保 ②食の確保 ③教育 ④子どもたちの安全

を守ること、です。

これらを達成し人々が希望を持って生きることができるよう活動を進めています。

飢餓と貧困の克服を応援

FHカンボジアは、現地の教会と活動に賛同する村の人々によって形成された村開発委員会、そして主役である家族と共に活動をし

ます。一人ひとりに備わっている潜在能力を活かして助け合い、次世代のリーダーとなる若者を育てていくこと、また協力しあって心と身体の飢餓を乗り越えていくことを目指しています。

世界里親会は、FHカンボジアが掲げる活動目標に賛同し、スバイルーの人々が飢餓と貧困を克服して希望を持って歩めるよう応援していきます。ぜひチャイルドサポーターになってください。子どもたちの教育と家族・地域の変革のためにご協力をお願いします。

■ 地域の現状 ■

収入：96%の世帯が農業に従事しています。雨季と乾季のバラ

スが乱れると収穫は減り、すぐさま収入減につながります。里子の家庭では毎年2～3ヵ月食べるものがなくなり、子どもたちは蛙やかたつむりをとって食べていますが、何も食べられない時もあります。そのために父親が他のキャッサバ畑や田んぼに働きに出るを得ません。また母親は鶏を育てて売ったり、近所の牛の世話をさせてもらったりしてわずかな収入を得て空腹をしのいでいます。

住居：60%が藁ぶき屋根(雨季には雨漏りが激しく眠れない日が続きます)

衛生環境：水＝井戸や池などから汲み、浄化している割合は27%、煮沸しているのは8%。トイレ＝家に用を足す決まった場所がある世帯は4%以下。

健康＝貧困のために病院に行くことができず、寄生虫や下痢など、容易に治る病気が命を脅かす重篤な症状を引き起こしています。WHOの2012年の調査

では、生後1ヵ月未満の死亡率は、出生1,000人中18人(日本は1人)、幼児(生後1年未満)では34人(日本は2人)です。

教育：15～60歳の非識字率は、スバイルー地区では31%。義務教育(6～14歳)の学校在籍率は70%。

村の開発委員によると、保護者たちは子どもたちに是非教育を受けさせたいと願い、遠くにある学校に通わせるために、一生懸命働いて自転車を買ってやろうとしています。1台の古い自転車にすらなかなか手が届かないのが現状です。

世界里親会からのお願い

(1) ハンドブック等でお知らせしておりますが、里子への個別のプレゼントはご遠慮ください。兄妹間や里子でない子どもたちが嫉妬してしまうことや、各国で荷物の受け渡しの際に物品が含まれていることから多額に関税が課せられる、荷物を受け取ることが困難になるなどが実際に起こっています。

(2) 里親会で里親さんから里子への手紙を受領した際の「受領通知」の発行は、通信費の見直しから廃止いたしました。入用の方は、お手数ですが、封筒または添え状に一言「通知必要」と明記してください。ご理解とご協力をお願いします。

世界里親会 大阪事務所
Tel.072 (920) 2225

チャイルドサポーター
になって応援ください

里子一人に月4,000円

サポーターさんには、成長記録やクリスマスカードが届きます。また手紙や写真の交流もできます。



料理をするお母さん



食料不足を補うためにカエルをとりにいきます



家畜の餌やりもティム君の日課です



作物の育ち具合を見るティム君

継続支援で子どもが変わる

ボリビア多民族国 駐在 小西小百合

当機構は、子どもの教育及び地域の自立開発支援をボリビア多民族国のチャヤ地域で12年間行ってきましたが、この地域での活動を2011年末に終了し、2012年からは同国の新たな2地域で活動を開始しています。

私がボリビアに赴任してこの11月で早や満8年。今までの活動を振り返って今最も強く感じることは“継続支援の大切さ”です。

里親（チャイルド・サポーター）の方々が、ボリビアの子どもたちのために、何年間にもわたって支援し又祈って下さっていることにより、子どもたちの全人的な成長とその地域の自立が可能になります。また継続支援することで子どもたちとその保護者の価値観の改革、ひいてはその地域の自立のためにFHボリビアのスタッフと共に長期的かつ有効なプランを立てて進めて行くことができるからです。

以前里子として支援を受けていた子どもたちに高校卒業後も関わり続け、今までの活動の豊かな実を見ることができるとは、私自身にとってこの上もない大きな喜

びと励ましになっています。これもまた短期間の支援や活動では起こりえないことです。前の支援地域であるチャヤの元里子・元奨学生たちは、高校を卒業した後専門学校や大学で勉強を続け、様々な資格をとって、いま社会で活躍しています。その中の一人、エドワルド青年は奨学生として農業技術を学びました。

人の役に立ちたい

エドワルド青年は「私は以前、自分の将来に夢を全く抱いていませんでした。小学校4年生までしか学校に行かず、その後5年間は勉強をしませんでした。しかし2000年にFHが私の村にやって来て私の人生は変わりました。あるFHのスタッフが私に“将来の夢（ビジョン）”について話してくれたのです。このことから私は、勉強して高校だけは卒業したいと切望するようになりました。今の私の夢は人のお役に立つ者になるということ。特に私は子どもたちに対して大きな責任を感じています。なぜなら子どもたちも自分と同じようにとても辛い経験をして

いるのを知っているからです。日本の友人である皆さんを通して私に与えられたこの希望を、是非この子どもたちにも与えたいのです。今私はFHボリビアのスタッフとして新しい支援地のアサワニで働き、私が抱いた希望を村々に、また最も困難の中にいる子どもたちに届けています。」

彼の人生を見る時“まず一人の子どものために祈り、継続的に関わることの大切さ。それによりひとりの子どもの人生が変わり、その人を通してさらにその地域の改革を見ることができ！”ということを再確認させられています。

「彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠に堅く立つ。その角は栄光のうちに高く上げられる。」（聖書 詩篇112篇9節）

まず私自身がこれを実践する者でありたいと願っています。また子どもたちを継続的に支援して下さる方々がさらに起こされることを願ってやみません。



世界食料デーで現地報告をいたしました



Q お店がオープンして4ヵ月足らずですが、お客様の反響はどうでしょうか

グラノーラ（注1）は新しい食文化として注目されてきていることもあって、お客様の反応はよいと

KOQUUの願い

食で食の問題を助ける事業活動を

感じています。関心をもって来店して下さる方が多く、すでに何度も来てくださる方も出てきます。

Q グラノーラは、健康志向や食の安全という観点からも関心をもつ方が増えているようですね

お客様の中には「貧血にはどの栄養素がいいの？」（この場合はレーズン等）、「疲れた時はどの組み合わせ（穀物、ドライフルーツ、ナッツ等による）の商品がお勧めなの？」と



オリジナルのグラノーラなどが並ぶ店内、ウェブ販売も

お店 兵庫県芦屋市大原町11-24ラポルテ北館1F110-5号 電話0797-38-2400 10:00-20:00 水曜日定休

今年9月にオリジナルの手作りグラノーラやドライフルーツを提供するお店としてオープンした「KOQUU」（兵庫県芦屋市大原町：JR芦屋駅前）では、Harmony with the Earth「地球にやさしくて、食を通じて世界に調和」というビジョンを実現していくために、当機構をパートナー団体を選び支援を始めてくださっています。取り組みについて責任者の京林寛之ブランドマネージャーに伺いました。

自分の体調から質問される方もおられます。うちは説明ができない科学添加物など一切使わない手作りのグラノーラを提供していますので、全てのスタッフが商品の食品表記が説明できるように自主的に勉強してもらっています。

Q KOQUUはどのような経緯で誕生したのですか

きっかけは、子どもです。二人目の子どもが生まれた時に、自分の体調不良が重なったこともあっ



スタッフが意義を感じて働ける職場にと京林氏

さとともに、自然環境、生産者、消費者への配慮をもって、継続的に調和のとれた食の環境を守っていくことを願っています。しかし、事業を行う上でどうしても環境に負荷をかけなければならない包装材などもありますので売上の1%はたとえ利益が出なくても、未来の地球のために貢献する団体に使ってもらうことを決めました。

Q お店では具体的にどのような形で応援してくださっていますか

JIFHのハンガーゼロ対象商品を決め、店内での飲食で商品1食の提供につき30円を応援させていただきます。すでにウェブサイトでこのことを知り来店して下さる方も出てきています。

また、今回は1%支援の対象として、ウガンダの女の子のサポーターになりました。いまスタッフ全員で手紙を書いているところです。ハンガーゼロをはじめJIFHの取り組みはとても素晴らしいと共感していますので、子どもの未来を変えていくために、自分たちの事業活動をしながら応援を続けていきたいと考えています。

調和のとれた食の環境を

Q KOQUUのビジョン「地球との調和」とは

まず商売として成り立った上で、社会に貢献していくこと。この事業活動を進める中で、食の大切

（注1）グラノーラは、燕麦、麦、玄米、とうもろこしなどを蜂蜜や黒砂糖、植物油と混ぜてオープンで焼き、ドライフルーツ、ココナッツ、ナッツなどをミックスして作った食べ物で、シリアル食品の一種。

（注2）オーガニックは、農業や化学肥料に頼らず、太陽・水・土・そこに生物など自然の恵みを生かした農林水産業や加工方法をさします。オーガニックが広まることにより、人や動植物、微生物などすべての生命にとって、平穏かつ健全な自然環境・社会環境が実現します。（JONAウェブページから）



左から元里子で現在FHボリビアのスタッフのエドワルドさん、フランシスコさん、アンセルモさん、小西駐在スタッフ

小西駐在スタッフへの支援は、小西指定と明記してお送り（ご送金）ください。問合せは大阪事務所まで